

Cisco Webex Servicesのクロスサイトスクリプティングの脆弱性



アドバイザリーID : cisco-sa-webex-xss-

[CVE-2026-](#)

TZFTbbwN

[20149](#)

初公開日 : 2026-03-04 16:00

バージョン 1.0 : Final

CVSSスコア : [6.1](#)

回避策 : No workarounds available

Cisco バグ ID : [CSCws84344](#)

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

概要

Cisco Webexの脆弱性により、認証されていないリモートの攻撃者がクロスサイトスクリプティング(XSS)攻撃を実行する可能性があります。シスコはこの脆弱性に対応しており、お客様のアクションは不要です。

この脆弱性は、ユーザ入力の不適切なフィルタリングに起因します。この脆弱性に対処する前に、攻撃者はユーザを悪意のあるリンクに誘導してこの脆弱性を不正利用する可能性があります。エクスプロイトに成功すると、攻撃者はターゲットユーザに対してXSS攻撃を実行できる可能性があります。

すでに説明したように、シスコはCisco Webexサービスでこの脆弱性に対処しているため、オンプレミスのソフトウェアやデバイスをアップデートするためにお客様のアクションは必要ありません。この脆弱性に対処する回避策はありません。

このアドバイザリーは、次のリンクより確認できます。

<https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-webex-xss-TZFTbbwN>

該当製品

脆弱性のある製品

この脆弱性は、クラウドベースのCisco Webexに影響を与えました。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

このアドバイザリの脆弱性のある製品セクションにリストされている製品だけがこの脆弱性の影響を受けることが知られています。

回避策

この脆弱性に対処する回避策はありません。

修正済みソフトウェア

シスコは、クラウドベースのCisco Webexでこの脆弱性に対処しています。ユーザの対処は必要ありません。

その他の情報が必要な場合は、Cisco Technical Assistance Center (TAC) もしくは契約しているメンテナンスプロバイダーにお問い合わせください。

不正利用事例と公式発表

Cisco Product Security Incident Response Team (PSIRT) は、本アドバイザリに記載されている脆弱性の不正利用事例やその公表を確認していません。

出典

シスコは、この脆弱性を報告していただいたShravan Joshi氏に感謝いたします。

URL

<https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-webex-xss-TZFTbbwN>

改訂履歴

バージョン	説明	セクション	ステータス	日付
1.0	初回公開リリース	—	Final	2026年3月4日

利用規約

本アドバイザリは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザリの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンド

ユーザを対象としています。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。